



関市板取の「株杉」



■会 長 加藤照彦 ■副会長 西田泰幸 ■幹 事 伊佐治啓司



関市民 1000 人が参加して創りあげた
シャインカーベシニアード『関二鳥』

D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT



SERVE TO CHANGE LIVES

2021 ~ 2022 年度国際ロータリーテーマ

『奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』 SERVE TO CHANGE LIVES

RI 会長：シェカール・メータ

関ロータリークラブ会長テーマ

『和衷協同』 56 代会長：加藤照彦



本日のプログラム

第 2635 回例会 6 月 21 日(土) 12:30

関市の「いま」と「これから」

関市長 尾関健治様

前例会の記録

第 2634 回例会 6 月 14 日(火) 12:30

「功德とは」

龍泰寺 住職 宮本覚道様

◆開会点鐘

◆会長挨拶



皆さんこんにちは。本日は、下有知の曹洞宗 祥雲山 龍泰寺のご住職であり、現役のパワーリフティング選手でアジアチャンピオンでもある宮本覚道様に大変お忙しい中お越しいただきました。ご住職は、厳しい自力の行で知られている永平寺で修行をされました。今日は心に届く法話を頂けると思います。後ほど宜しくお願い致します。

さて、今日は雨ですが、天気は毎日変わり晴れたり曇ったり雨が降ったりします。季節によっても暑かったり涼しかったり寒かったりします。ふと目にした景色をきれいだなと感じたり、急いでいる時に道路が渋滞してイライラしたり、嫌な噂を聞いて悲しい気分になったりと、人には喜怒哀楽の感情があり、煩惱があります。毎日の天気さえ、良い・悪いと評価をして気分が上がったり下がったりします。

しかし、現象は全て同じ（ゼロ）と考えると、自分の気持ちでプラス評価をするかマイナス評価をするかによって、別の景色が見えてきます。毎日たくさん情報が溢れ、慌ただしく物事が動いているように感じられますが、その時の景色を決めるのは自分自身の見方・心です。

物事を変えるよりも、見方を変えてみると、今まで苦しく感じていたことや気が進まなかったことが、楽しく感じられるかもしれません。怒られて腹

を立てるよりも、自分は間違っていた、誤りを指摘してもらえたと感謝すれば、怒られた言葉もありがたく受け止められます。

人の数だけ心があります。心の捉え方一つで不幸にも幸福にもなります。プラスとマイナス、どちらの見方をしても同じ時間を過ごすのであれば、プラスの見方をした方がきっと楽しい時間を過ごせるのではないのでしょうか。

◆委員会報告

◎出席委員会 秋柄達也委員長

会員 49 名中 出席者 21 名 出席率 42.86%

◎ニコボックス委員会 林昇会員

会長、副会長、幹事・・・本日のお客様 龍泰寺ご住職 宮本覚道様、関ロータリークラブにご来訪頂きまして誠に有難うございます。日頃の私たちの RC 活動は仏教の教えの「功德」に照らすとどの程度なのでしょうか？お話を楽しみにしております。本日の IGM 発表は「小原昌活」さんです。楽しい IGM の発表を宜しく願いいたします。

古田貴巳会員、福田春彦会員、三輪雄彦会員、大澤竜一会員、秋柄達也会員、尾崎嘉彦会員、粟倉晋吾会員、臼田龍司会員・・・龍泰寺 住職 宮本覚道様 ようこそ関 RC へ。功德についての卓話と伺っております。辞書で功德を引きますと「善や福を積んで得たれたもの」とありました。まさにロータリーの活動と相通じるものと思います。そこで、もう一つの口説くを辞書で引きますと「熱心に説いたり頼んだりする」とございました。そこで、ご住職も共にロータリー活動にいそしんで頂けることを期待しておりますので、本日宜しくお願い致します。

西田泰幸会員・・・6月9日木曜日に IGM を主催させていただきました。酒向さん、小原さん、東谷さん、藤井先生の皆様。メイメイにお忙しい中を、なかには遠方からかけつけていただきありがとうございます。大きな仕事が終わったという充実感でいっぱいです。発表の方、よろしく願いいたします。

加藤浩二会員・・・先日のロータリーゴルフ大会において、不本意ながら優勝させていただきました。1年間、委員長はじめ会員みなさま、楽しいゴルフありがとうございました。来年度も入会する予定

です。よろしくお願いします。

酒向徳享会員、小原昌浩会員、東谷好司会員、藤井淳会員・・・去る6月9日木曜日 18:30からだいたいにてIGMがひらかれました。ホストは西田さん、リーダーは東谷さんです。暑い日でしたので先ずは冷たいビールで乾杯しました。ややあってロータリー情報委員長長の藤井先生から「世界平和におけるロータリーの役割」というタイムリーなテーマで情報 話題の提供があり、お酒もすすんで脱落しながらも深いディスカッションがなされました。だいたいさんの心のこもった手料理についてお酒もすすみました。小原さんが発表者ですが、例会出席できずということで、文章にまとめていただき代読しますのでお楽しみに。

◆「功德とは」

龍泰寺 住職 宮本覚道様



禅の教えについて分かる「達磨廓然」という問答があります。本日は、この問答を紐解きながら功德についてお話しさせていただきます。

時代は中国南北朝時代。南朝の梁の初代皇帝で

ある武帝と、中国禅宗の開祖の達磨大師が、中国の南京で初めて会った時に交わされた問答です。梁の武帝は、大きなお寺をたくさん建てたり、数十万人の僧侶を施したり、仏教のために尽くした人でした。このような皇帝が治める国へ達磨がおいでになるというので、武帝は最大の敬意をもってお迎え、いよいよ問答となります。

武帝「私は多くのお寺を建て、多くの僧侶に施し、多くの経典を学んできました。これにはどんな功德がありますか？」

達磨「無功德。そんなことに功德などありません。」

武帝「では、もっとも素晴らしい仏教の教えとは何でしょうか？」

達磨「廓然無聖。仏の世界は広々として一点の曇りもなくカラリとしています。そこには素晴らしいとか素晴らしくないとか、そんな区別はありません。」

武帝「いやいや、あなたこそ素晴らしいお方ではないですか？」

達磨「不識。そんなことは知りません。」

武帝は達磨が最後まで何を言っているのか全く理解できませんでした。達磨はそんな武帝に見切りをつけ、魏にある少林寺に行き、9年間坐禅修行を行った、というお話です。

なぜ達磨は武帝の行いには功德が無いと言ったのでしょうか。それは、武帝が初めから「善いことをしたら功德が返ってくる」と思いながら、お寺を建てたり、僧侶を施したりしていたからです。つまり、「善いことをしたら功德が返ってくる」という先入観があったからです。こうした先入観があつては、善い行いをしてしてもそれには功德は無い。そうした行いは、かえって真理を見失い、煩惱の原因をつくっ

ているだけだということです。

「与えられたらお返しをする」という教えは日本の古き良き文化であり、世の中の常識として実際に私たちもそう思って生きております。しかし、ここで考えていただきたいことがあります。それは、もともとは「与えられたらお返しをする」というだけの教えであるのに、いつの間にか「だったら、与えたらお返しをしてもらえ」という勝手な解釈も付け加えてしまつてはいないか、ということです。挨拶をしたら、挨拶を返してほしい。人助けをしたら、お礼の一言くらいは欲しい。私たちは無意識にお返しを求めがちです。なぜ、お返しを求めてしまうのでしょうか。それは「与えたらお返しをもらえ」と自分に都合のいい解釈を無意識にしており、それが正しいと思いこんでしまつているからです。私たちはこの先入観によって「自分が正しいに決まっている」と思い込み、お返しがあることを正当化して、自ら煩惱の原因を作り出してしまつているのです。

では、功德がある行いとはどういった行いでしょうか。それは、自分が善いと信じることをただ行うことです。なぜ、これが功德になるのでしょうか？何か善いことをすると不思議と心が安らぐ時があります。ゴミを拾ったり、履物を揃えたり、誰にも見られていなくても、誰にも褒められなくても、自分が良いことをしたと思え、心がスッと安らぐ瞬間があります。なぜ心が安らぐのでしょうか。それは、実はそれだけで十分に心が満たされているからなのです。そこに「与えたらお返しをもらえ」という先入観があると、お返しの方に思いが傾いてしまい、心が乱れてしまうというのです。

禅の修行は、いつも善い行いすることを心掛け、毎日を丁寧に生きることです。毎日の行いを調えることによって自ずと心が調っていく。善い行いをただ積み重ねることによって、心が安らぎだけで満たされて、余計なことを考えもしなくなり、心が綺麗になるのです。この綺麗な心のことを達磨は「廓然無聖」と示されたとは思いますが。

このお話は、今を生きる私たちにも通じる教訓でもあります。

私たちは、自分とは違う考え方をする人に対して、「それは間違いだ」と言って喧嘩をしたりします。この原因は何でしょうか。それは「自分が正しいに決まっている」という先入観によって「相手が間違っている」と決めつけているからです。しかし、ここで忘れてはならないことがあります。それは、相手はそれが正しいと思って意見をしているということです。つまり、どちらの意見も正しい意見であり、ここで大切なのは「なぜこの違いが生まれるのか」という物事の本質を見ることなのです。正解の反対は間違い、ではなく、また別の正解なのです。

このお話は、「自分が正しいに決まっている」という先入観を捨てて物事の本質を見ることの大切さを説いています。このことを念頭に、ただただ善い行いをするを心がければ、安らぎで心が満たされ、自ずと綺麗になっていくのです。

このお話は、今のストレス社会に生きる私たちにも通じる大切な教訓なのです。

◆IGM の報告

報告者：小原昌浩（代読 酒向徳享）

日時：2022年6月9日（木）18:30

場所：だいえい

ホスト 西田泰幸 R情報 藤井淳

リーダー 東谷好司

義務出席者 酒向徳享、小原昌浩

山田義久さんが出張ということで計5名のメンバーでだいえいさんにてIGMが開催されました。今回は、ここ最近IGMが開催されていないということもあり西田先生の「意地でも開催しよう」というお気持ちでセッティングされたということでした。最初は、東谷さんと藤井先生がお仕事の都合上遅れてこられましたので、残りの3名で雑談をしております、「バイトの時給」についての話をしております。その中でクロネコヤマトの福利厚生は良いということが判明、バイトを探されている方はぜひのことです。そうこうしているうちに藤井先生と東谷さんが無事到着され、本日のテーマ「世界平和におけるロータリーの役割」について議論がはじまります。世界平和といえばウクライナの戦争が話題になることは誰しも認めることだと思います。今の時代にこんな戦争が起こるなんて・・・皆さんびっくりしたことでしょう。ここで、ロータリアンとして何ができるのか？ということ。ロータリアンとしての支援についてウクライナにもロータリーは存在し2630地区で消防車を援助物資として送るという動きがあるようです。（堀部さんから藤井先生への情報）これについては事実上輸送できるのかという問題があるのでは等、論議が交わされましたが結果次のようにしたらいいのではないかと案が出されました。（ウクライナロータリーにお金を送金→ウクライナロータリーが消防車を購入→寄贈）・支援物資について支援物資についても多々問題があるようで、最初は大使館に支援物資が送られてくるが整理が出来なく倉庫状態になっているようでした。これに関しては、現在、中間業者が間に入って徐々に解消されつつあるようです。支援物資については送りっぱなしではなく送り先の人々に負担をかけないような方策が必要であることを再認識させられました。・難民について現在日本ではウクライナ難民は受け入れているようですが、中東・アフリカからの難民は認めてもらえない状況にあるようです。歴史の流れかもしれませんが日本にはまだ鎖国的な風潮があるようなので、そのことについても考えさせられました。当日のハプニング・当日のメニューは「ジュンサイ→刺身→ハマグリ酒蒸し→天然アユ天ぷら→釜めし」でしたが、藤井先生のハマグリの蓋が開かなくて女将さんが大将に叱られていました。また、酒向さんが釜めしの中の小さなエビをこっそり抜いていた光景が衝撃的でした。

最後に女将さんの漫談

桑名のハマグリの店「ひので」がとてもおいしいので機会があったら行ってみてください。ただし、だいえいの大将はその店に行かれたことがあるらしいのですが女将さんは行ったことがないそうです。また、女将さんが大将にこんな質問をされたようです。「生まれ変わったらまた一緒にになりたい

か？」と聞いたところ大将は「人間に生まれ変われるかわからない」と答えたそうです。（次は虫かもしれないですね）

最後に、美味しいお酒と料理をご馳走して頂きました西田先生ありがとうございました。また、提供頂いだいえいの大将にも感謝を申し上げIGMの報告とさせていただきます。

◆幹事報告

伊佐地幸子事務局の後任として恩田久美子さんが入局しました。

◆6月ゴルフ会

日時：6月12日（日）10:01スタート

場所：シーダヒルズカントリークラブ



優勝：加藤浩二会員



2022年度取り切り戦優勝：高木登企久会員

次例会のご案内 7月2日（土）18:00
「通常総会」 於：だいえい ※7/5 変更